

<研究ノート>

地域における「つながり」の現状と大学のはたす役割 ～F町N地区アンケート調査をもとに～

黒木 利作¹⁾・陰山 雅美²⁾・藤井 悦子³⁾

The Current State of “Community Relationship” and the Role of a University — A questionnaire survey on west N district in F Town —

Risaku KUROKI¹⁾・Masami KAGEYAMA²⁾・Etsuko FUJII³⁾

There is in the super-aging society in Japan now, and a problem of various welfare has come out in the community. One of them is thinness of "relationship" in the community, there is also a need to face the University is one of the social resources of the community for the problems.

The purpose of this paper is to explore current situation of the "relationship" in the community, and how to proceed with community activities by community initiative, the way of sustainability cooperation with University through the community residents opinion. We report the results of the questionnaire survey of community residents in N district in F Town.

Key words : super-aging society, relationship, sustainability, problem of welfare, community initiative

超高齢社会、つながり、持続可能性、福祉課題、住民主体

はじめに

我が国は平成26年10月1日現在で高齢化率26.0%¹⁾となっており、超高齢社会の中を進んでいる。今後も高齢化の流れはさらに加速していくと予測される。そうした中、地域ではさまざまな福祉課題も出てきている。そのひとつに住民の高齢化にともなう地域の支える力のひとつの要素である「つながり」の希薄化がある。そうした課題に対し、地域の社

会資源のひとつである大学も地域の福祉課題に対して向き合う役割があり、神戸医療福祉大学（以下、本学）も平成26年度から具体的に地域に関わってきた。

兵庫県にあるF町N地区（以下、地域）は町の東側に位置している世帯数106の地域である²⁾。本学と地域との関わりは平成26年3月27日の視察会から同年7月24日の報告会で終了した福祉ニーズ調査にはじまる。以来、秋祭りへの学生参加やクッキングサークルに

1) 神戸医療福祉大学 (Kobe University of Welfare) 〒679-2217 兵庫県神崎郡福崎町高岡1966-5

2) 元神戸医療福祉大学 (an ex-Kobe University of Welfare) 〒679-2217 兵庫県神崎郡福崎町高岡1966-5

3) NPO 法人 播磨地域福祉サービス第三者評価機構 (NPO:Harima area welfare service third party evaluation organization) 〒670-0955 兵庫県姫路市安田3丁目1番地姫路市自治福祉会館1F

よる交流等を通じて関わりが続いている。

今回、それら一連の活動の中間まとめとして、自治会の協力のもと地域の全世帯を対象としたアンケートを実施し、一応の結果を得ることができたので報告する。

1. 調査の概要

(1) 目的

地域住民の意見をとおして、地域における「つながり」の現状、住民主体による今後の地域活動の進め方、本学との持続可能な連携のありかたを探ることを目的とした。

(2) 調査期間

平成27年4月18日（土）～4月26日（日）

(3) 方法

質問紙による無記名でのアンケート形式とし、1世帯につき2部（「世帯主・代表者用」と「同居ご家族用」）を配布した。なお地域のご協力により、配布と回収は隣保長に担当していただいた。集計にはEXCELを用いた。

(4) 対象者

地域全世帯 ※ただしF町資料（平成26年9月）によれば106世帯であるが、配布できたのは93世帯であり、うち回収できたのが84世帯（147名）であった。そのため今回の調査においては回収できた84世帯のみを対象とした。

(5) アンケート回収結果

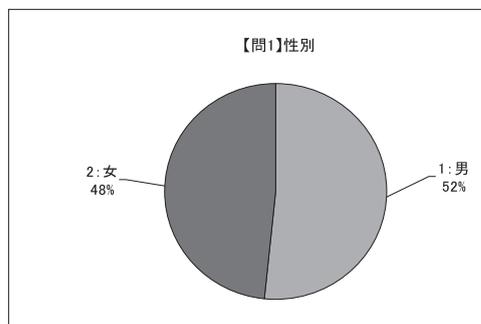
配布世帯数：93世帯

回収数：84世帯（回収率：90%）

	回答数	有効回答数
世帯主・代表者	81	80
同居ご家族	66	63
合計	147	143

2. 調査結果

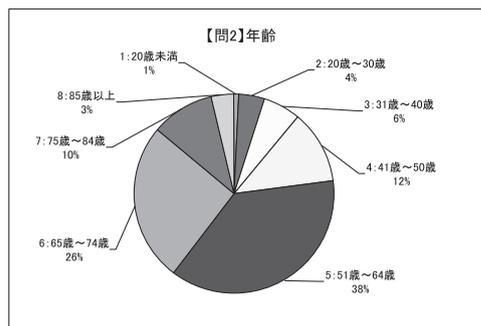
【問1】性別



	人数（人）	割合（%）
1：男	74	52
2：女	69	48
合計	143	100

回答者143名のうち、男性は74名（52%）、女性は69名（48%）となったが、その内訳をみると世帯主では男性が多く、同居家族では女性が多いという傾向がみられた。

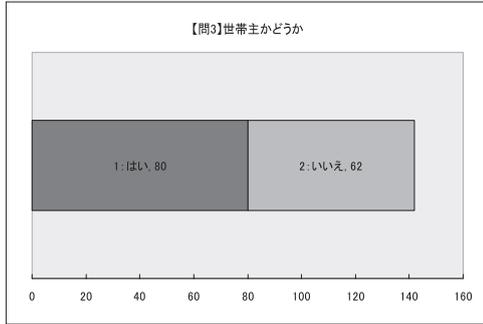
【問2】年齢



	人数（人）	割合（%）
1：20歳未満	1	1
2：20歳～30歳	6	4
3：31歳～40歳	9	6
4：41歳～50歳	17	12
5：51歳～64歳	53	38
6：65歳～74歳	37	26
7：75歳～84歳	15	10
8：85歳以上	5	3
合計	143	100

年齢では51歳～64歳が最も多く全体の約4割を占めた、65歳以上の高齢者の占める割合は全体の39%であった。

【問3】あなたは世帯主ですか？

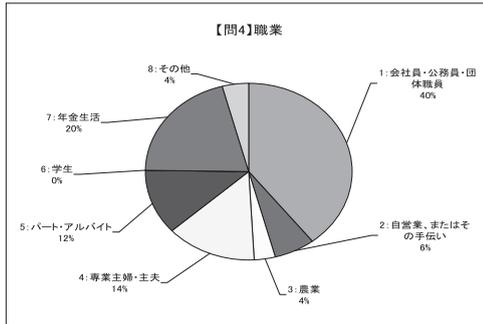


(回答数：142 無回答：1)

	人数 (人)	割合 (%)
1 : はい	80	56
2 : いいえ	62	43
合計	142	100

世帯主は56%、同居家族は43%であった。

【問4】あなたの職業は何ですか？



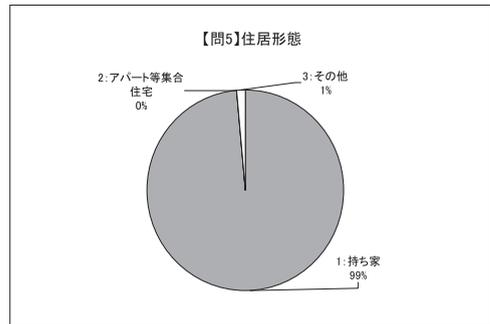
(回答数：142 無回答：1)

	人数 (人)	割合 (%)
1 : 会社員・公務員・団体職員	56	40
2 : 自営業、またはその手伝い	9	6
3 : 農業	5	4
4 : 専業主婦・主夫	20	14
5 : パート・アルバイト	17	12
6 : 学生	0	0

7 : 年金生活	29	20
8 : その他	6	4
合計	142	100

職業では会社員・公務員・団体職員が最も多く、全体の40%を占めた。次に多かったのが年金生活で、20%であった。農業が4%であった。平成22年の国勢調査によるとF町の第1次産業の割合は3%となっており、農業を営んでいる世帯があっても兼業農家が多いものと推定される³⁾。

【問5】現在居住している形態を教えてください。

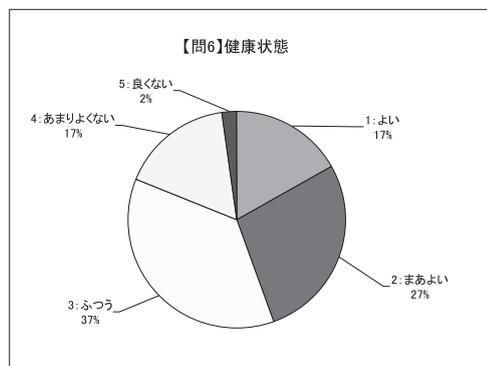


(回答数：142 無回答：1)

	人数 (人)	割合 (%)
1 : 持ち家	140	99
2 : アパート等集合住宅	0	0
3 : その他	2	1
合計	142	100

持ち家が全体の99%を占めていた。このことは回答者のうち、65歳以上の占める割合が39%であったことを考えると、年齢階級が高くなるほど持ち家率が高くなっていると総務省の結果とも合致する¹⁾。

【問6】現在の健康状態を教えてください。

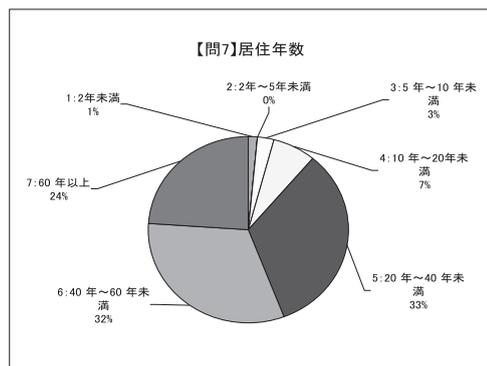


(回答数：142 無回答：1)

	人数 (人)	割合 (%)
1：よい	24	17
2：まあよい	39	27
3：ふつう	52	37
4：あまりよくない	24	17
5：良くない	3	2
合計	142	100

健康状態では「よい」と「まあよい」を合わせると44%となった。ただ最も多かった「ふつう」の程度は個人の特性によってばらつきがあるものと思われる。

【問7】この地域にどのくらいの期間住んでおられますか？

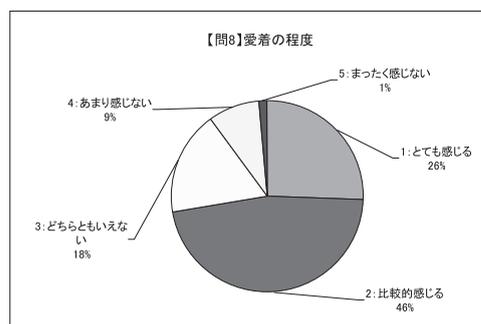


	人数 (人)	割合 (%)
1：2年未満	2	1
2：2年～5年未満	0	0

3：5年～10年未満	4	3
4：10年～20年未満	10	7
5：20年～40年未満	47	33
6：40年～60年未満	46	32
7：60年以上	34	24
合計	143	100

居住期間をみると20年以上住んでおられる方が全体の89%を占め、世帯の増加や入れ替わりが少ないということが見て取れる。

【問8】この地域にどの程度愛着を感じておられますか？

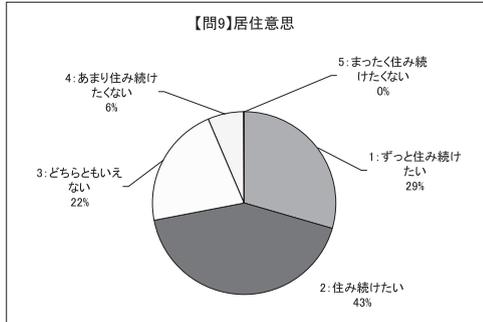


(回答数：141 無回答：2)

	人数 (人)	割合 (%)
1：とても感じる	36	26
2：比較的感じる	66	46
3：どちらともいえない	25	18
4：あまり感じない	12	9
5：まったく感じない	2	1
合計	141	100

「とても感じる」と「比較的感じる」を合わせると72%になった。一方「あまり感じない」「まったく感じない」が合わせて10%存在している。

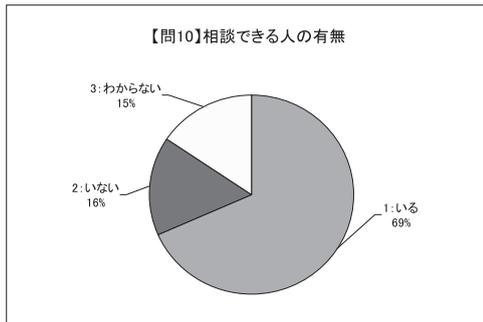
【問9】 これからもこの地域に住みたいと思いますか？



	人数(人)	割合(%)
1: ずっと住み続けたい	42	29
2: 住み続けたい	61	43
3: どちらともいえない	31	22
4: あまり住み続けたくない	9	6
5: まったく住み続けたくない	0	0
合計	143	100

「ずっと住み続けたい」「住み続けたい」を合わせると72%となった。

【問10】 同居の家族以外で地域の中にあなたの困りごと等を聞いてくれる人がいますか？



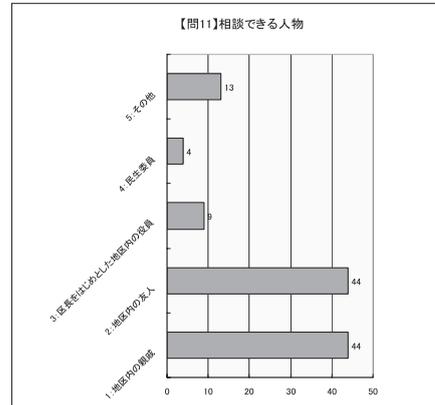
(回答数：142 無回答：1)

	人数(人)	割合(%)
1: いる	97	69
2: いない	23	16
3: わからない	22	15
合計	142	100

全体の69%は困りごとを聞いてくれる人

がいてと答えた一方、「いない」と答えた方が16%いた。家族内で完結できるのでないのか、それともだれもいないのかは検証する必要がある。

【問11】 それは誰ですか？（複数回答）

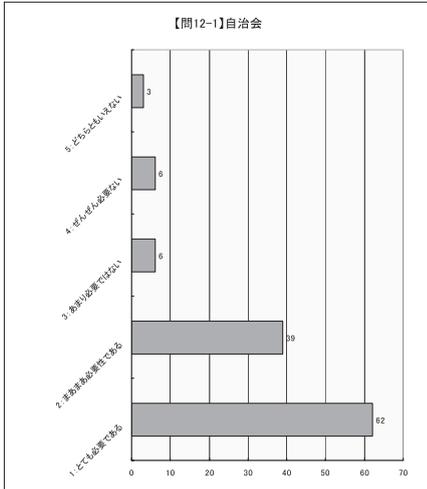


	人数(人)
1: 地域内の親戚	44
2: 地域内の友人	44
3: 区長をはじめとした地域内の役員	9
4: 民生委員	4
5: その他	13

相談できる人物としては、地域内の親戚や友人が最も多かった。「その他」では地区外の友人や職場の同僚等があった。

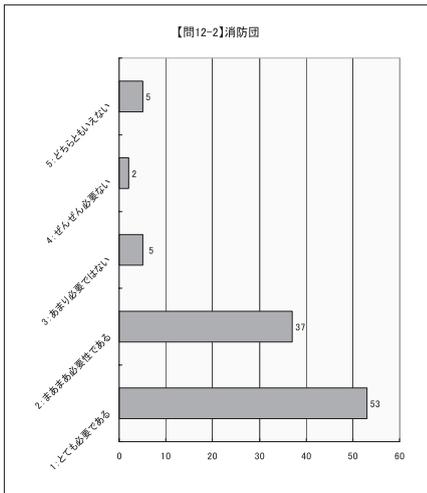
【問12】 あなたは地域内の人とどんな「つながり」をもっていますか？また、それはどの程度必要ですか？（複数回答）
※グラフと表の実のみ記載

1. 自治会



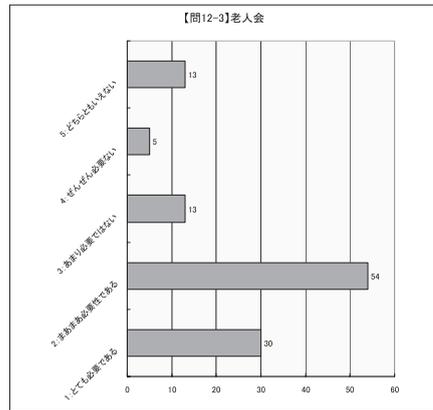
	人数(人)
1: とても必要である	62
2: まあまあ必要性である	39
3: あまり必要ではない	6
4: ぜんぜん必要ない	6
5: どちらともいえない	3

2. 消防団



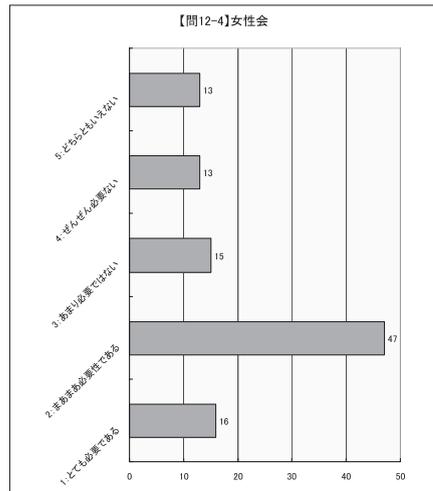
	人数(人)
1: とても必要である	53
2: まあまあ必要性である	37
3: あまり必要ではない	5
4: ぜんぜん必要ない	2
5: どちらともいえない	5

3. 老人会



	人数(人)
1: とても必要である	30
2: まあまあ必要性である	54
3: あまり必要ではない	13
4: ぜんぜん必要ない	5
5: どちらともいえない	13

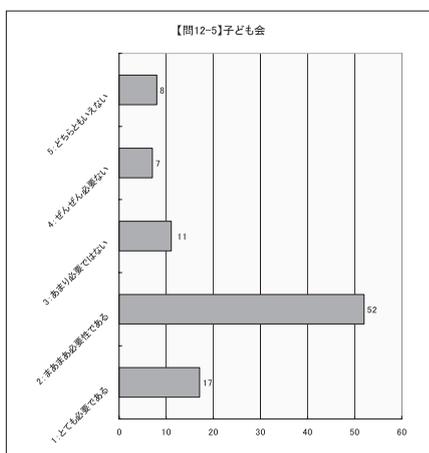
4. 女性会（婦人会）



	人数(人)
1：とても必要である	16
2：まあまあ必要性である	47
3：あまり必要ではない	15
4：ぜんぜん必要ない	13
5：どちらともいえない	13

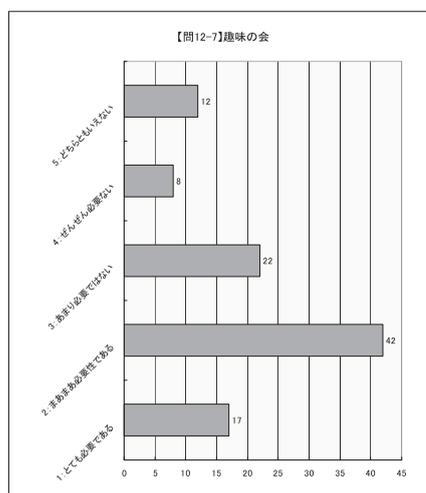
	人数(人)
1：とても必要である	20
2：まあまあ必要性である	31
3：あまり必要ではない	17
4：ぜんぜん必要ない	11
5：どちらともいえない	21

5. 子ども会



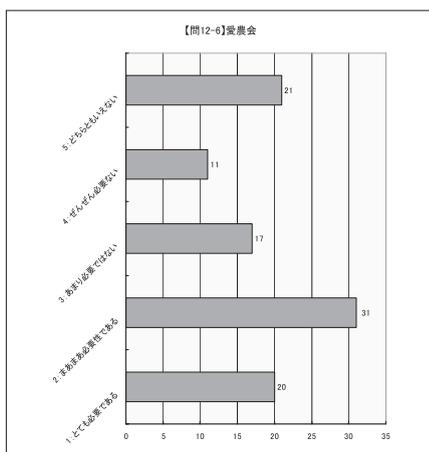
	人数(人)
1：とても必要である	17
2：まあまあ必要性である	52
3：あまり必要ではない	11
4：ぜんぜん必要ない	7
5：どちらともいえない	8

7. 趣味の会 (グランドゴルフ、手芸など)

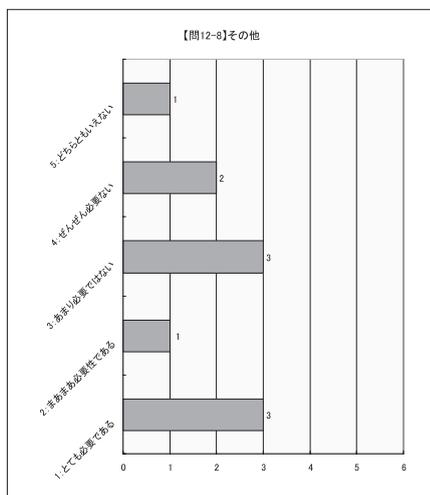


	人数(人)
1：とても必要である	17
2：まあまあ必要性である	42
3：あまり必要ではない	22
4：ぜんぜん必要ない	8
5：どちらともいえない	12

6. 愛農会 (農業者の集まり)



8. その他



	人数(人)
1：とても必要である	3
2：まあまあ必要性である	1
3：あまり必要ではない	3
4：ぜんぜん必要ない	2
5：どちらともいえない	1

※「その他」の中にはカラオケという回答があった。

全体では自治会や消防団等、公共性が高いものについては「とても必要である」「まあまあ必要性である」を合計したものが過半数を超え、必要とされている傾向がみられた。他の地域内組織についても、当初必要性があるから作られた経緯があるためか否定的意見はあるものの、多くはその必要性を認めている。

【問13】すべての方にお聞きします。

あなたは今住んでいる地域のつながりについてどのようにお考えですか？できるだけ具体的に記入してください。（自由記述）※主なものを抜粋

- ・一見、地域のつながりが有りそうだが、年齢差を飛び越えてのつながりは少ないと思

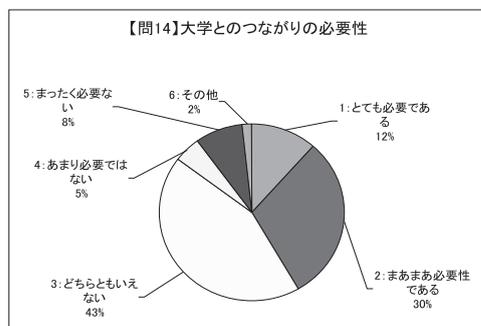
われる。考え方や行動が違うかもしれないが、遊びや話し合う場所の設置等のできるだけ意識の疎通・共有をしなければ本当の地域のつながりにならないと思う。

- ・「つながり」は必要であるが行事参加が多く仕事との両立が大変である。
- ・昔に比べうすくなっている。祭り程度しか顔を会わさない人がたくさんになった。
- ・隣人とも週に1回顔を合わせるかどうかというくらい。みんなが忙しくなっているように思う。（車で出入りすることも関連ある）あまり他人と濃い付き合いを望まない風潮もあるようだ。葬儀も会館がほとんどとなり隣保での付き合いも減った。
- ・部落は大きな大家族と思っている。だれが困っても苦しんでも自分のように感じる。
- ・現在は自分の親が村との付き合いを主にしているが、親が亡くなった後は村の決まり事などよくわかっていないため不安が大きい。自分たちにできる範囲で参加したいが、同世代で気さくに話せる方もいないのでやはり不安。また田畑の管理についてもどうしていったらいいかわからない。
- ・顔を合わせれば普通に挨拶（おはようございます。今日は特別寒いね。元気ですか？など等）ができる人口。また、地域活動等を通して気軽に会話ができて意見交換やちょっとした悩み事の相談発言が可能な中間的存在。
- ・「どんど」「氏神のさるまつり」等昔からの地域のつながりを強固にしてきた行事への参加が役員以外はお客さんになっている。準備や企画から本番までできるだけ多くの人が主体的に参加できるシステムと意識付けをしてはどうか。「N地区の良さ」をもっと認識して磨きをかけ、それぞれが楽しめるものにしてはどうか。
- ・N地域を最低限維持管理を続けていくため

だけの年数回の作業が義務づけられているが、これでは現状以上に地域が良くなっていくことはなく、環境や建造物は時とともに老朽化・劣化していく一方である。人口減少・高齢化に併行して、ソフト面・ハード面ともに改革していく姿勢が必要。例えば「安全・安心でクリーンなまちづくり」のようなスローガンを掲げ、その目標に向かってルールやシステムを修正していくことが、ひいては住み続けたい地域づくりにつながっていくのではないか。地域の将来のために、今、何をすればいいのかを話し合うべき。

- ・つながりが必要なのはわかっているが〇〇会とか行事に参加するのがしんどい。気持ちにも時間にも余裕がないので。
- ・老人会、女性会、合同の催し物等、皆で楽しく遊べる様々な企画は如何でしょうか。
- ・今後、更に高齢化が進むので、もっと地域でのつながりが必要となる。
- ・高齢者世帯が多いので様々な面でのサポートが必要。
- ・若者と高齢者のつながりをもっと必要。地域の活性化のため目的を共有することにより地域がひとつになれるかも。
- ・都市や町に住んでいる人の様に隣にどんな人がいるのかわからないというような状態ではなく、災害にあった時とか困ったことがあった時にすぐに助けてあげたり助けてもらったりできる関係を保っていききたい。
- ・住んでいる期間が長くないのですが最近地域の方々と交流ができるようになり進んで教室にも仲間に入れてもらいうれしく思っています。これからもできる限り続けていきたいです。

【問14】 大学とのつながりは当地域にとって、どの程度必要ですか？



(回答数：130 無回答：13)

	人数(人)	割合(%)
1：とても必要である	15	12
2：まあまあ必要性である	39	30
3：どちらともいえない	57	43
4：あまり必要ではない	6	5
5：まったく必要ない	11	8
6：その他	2	2
合計	130	100

大学とのつながりについては「とても必要である」と「まあまあ必要性である」を加えた割合が42%であった。現時点では関わり期間もまだ短く、自治会役員等一部の住民との関わりが主である。関係を構築するには時間と労力が必要であり、住民全体に必要性を実感してもらうには大学側の継続的な関わりが必要であろう。

【問15】 昨年度、大学が当地域に関わった①～③の内容でよかった点と改善を要する点を教えてください。

①福祉ニーズ調査

H26.3月27日(視察会)～7月24日(報告会)

②秋祭りへの学生参加

H26.10月11日・12日

③クッキングで地域交流

H26.11月26日 H27.1月21日

1. よかった点(回答数:29 主なものを抜粋)

①「福祉ニーズ調査」について

- ・地域のニーズが明確になった。
- ・新しい試みを提案、実行して下さって感謝します。
- ・気になった点を教えていただいた感じ。

②「秋祭りへの学生参加」について

- ・若い人と交流が持てること。
- ・秋祭りは播州地域を知るいい経験。
- ・秋祭りへの学生参加について地域の活動を知ってもらえること。
- ・秋祭りへの学生さんの参加、やはり若い人が加わることでにぎやかでよい。

③「クッキングで地域交流」について

- ・若い人と交流が持てること。
- ・若い方と接する事で老人たちも元気になる。
- ・大学の生徒さんと交流ができて身近な関係になった。
- ・皆で食事をできるのが楽しみ。
- ・500円でよかったですと思います。

(その他)

- ・大学生とどの行事であれ交流を持てたことは大切である。
- ・外部の人が住民と交わるだけでも住民の刺激となり良いことだ。
- ・たくさん集まればいろいろなことがよくわかる。

2. 改善を要する点 (回答数: 20 主なものを抜粋)

①「福祉ニーズ調査」について

- ・調査の結果、まとめなどが紙面でもう少し詳しく知ることができればよかったですと思う。調査に来てくださった時も質問の目的などがよくわからなかった。
- ・時間的に余裕がなくこの度の様なことはアンケートでもよかった。

②「秋祭りへの学生参加」について

- ・参加人数を増やしてほしい。

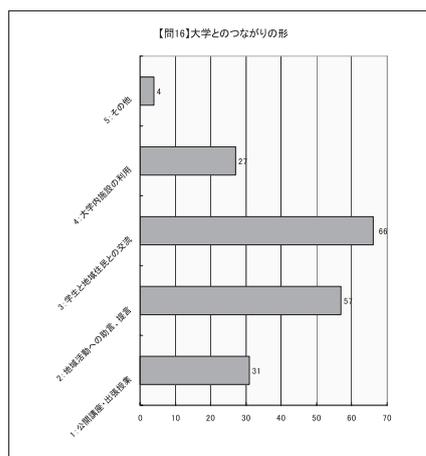
③「クッキングで地域交流」について

- ・地域の人と共同調理、もっと高齢者が参加するような働きかけ等が必要
- ・味が濃すぎるので気を付けてほしい。
- ・人数制限があったためわかりません。
- ・クッキングはもっと安く提供すべき。

(その他)

- ・老人とのグランドゴルフなど老人とのつながりが多ければよい。
- ・もっと地域への声掛けが必要では？
- ・目的の明確化、活動の見える化が必要では？
- ・住民と意見交換をする時間が持てるといい。一方的に提供されるだけではその場限りとなる。発展につながるような工夫がいるのではないか。

【問16】 大学とは今後、どのような形のつながりを求めますか？ (該当するものすべてに○)



	人数(人)
1 : 公開講座・出張授業	31
2 : 地域活動への助言、提言	57

3：学生と地域住民との交流	66
4：大学内施設の利用	27
5：その他	4

結果から「学生と地域住民との交流」や「地域活動への助言、提言」といったことを大学に求めていることが見て取れる。今後もそうした面を中心に関わりを深めていく必要がある。

3. 地域内における持続可能なつながりの構築

今回の結果を見ると、長年居住している住民が多いこともあり、地域内の横のつながりは機能しているように思われる。住民自らが祭りやその他の行事等を通じて地域内のコミュニケーションを図る努力を継続している成果であろう。

つながり（地縁）の希薄化の背景には少子高齢化、核家族化、職業や生活様式の多様化、新・旧住民の混在等が考えられる。その状況は容易に変化するものではない。むしろそうした状況でも、持続可能な地域コミュニティを構築することが現実的ともいえる。そのためには行政との連携、他の地域との協働、大学等利用可能な社会資源の活用等が考えられる。また、マニュアル化等によって活動をメンテナンスしやすくすること、伝統的・神事・仏事に現代的な地域行事をプラスさせた行事を実施、地域内組織の連携（老人会・婦人会・消防団・子ども会など）、ブログなどによる外部に向けての発信等も考えられる。

岡は徳島県旧海部町の自殺率の低さを調査検証した中で、自殺予防因子のひとつとして「ゆるやかな絆」をあげている⁴⁾。そうしたなかで住民主体の持続可能なシステムが構築され、気軽に語れ、参加できるつながりが構築されるものと考えられる。しかし、それに

より地域のキーパーソンへの負担が増えては長続きしない。身の丈に合わせた変化（進化）し続けるためにも、次代の担い手の育成も必要である。

4. 地域と大学との持続可能なつながりの構築

調査結果から、本学がこれまで地域に対して実施してきた関わりに対する評価と、本学に求めている内容が明らかになった。概ね好意的に受け入れてもらっているものの、まだ期間が短く、関わりも限定的なため「どちらともいえない」という意見が多かった。真の評価は今後の継続的な関わりの結果によって明らかになるものと思われる。

大学には教育機関であると同時に、地域の社会資源としての役割がある。特に私立大学は「地域社会に貢献する人材育成と学生を原動力とした地域社会の発展の核」「地域社会における生涯学習の場と知的コミュニティの創造」という役割を担っているとされている⁵⁾。今後も教員が主体となった地域活動への助言・提言等や、学生が主体となった地域住民との交流、ボランティア等を進める必要がある。ただ注意すべきは、大学が考える地域連携・貢献と、地域が大学に期待するものとの間にミスマッチがあってはならない⁶⁾。今後も常に評価と修正を加えつつ、覚悟を決めて地域との協働を進め、新しい地域づくりの設計を住民とともにおこない、地域と共に学び、成長する関係へとつなげていく必要がある。

おわりに

今回の調査において当初の目的については一応の結果を得ることができた。しかし、今回のアンケートでは分からなかった課題も当

然ある。今後は今回の結果を活かしつつ、他の地域についても関わっていく必要がある。調査に際して地域の皆様には大変お世話になりました。区長をはじめ役員の皆様にはアンケートの質問項目の作成の段階から関わっていただき、また隣保長の皆様にはアンケート用紙の配布、回収までしていただき、本当にありがとうございました。最後にデータ入力等を手伝ってくれた、学部生の石松翔太君、澤田春菜さんには大変お世話になりました。この場を借りてお礼を申し上げます。

【引用・参考文献】

- 1) 平成27年版 高齢社会白書、内閣府（編）2015
- 2) 「人口統計表 平成26年9月末現在」F町資料
- 3) 「F町統計資料」福崎町ホームページ
(<http://www.town.fukusaki.hyogo.jp/cmsfiles/contents/0000000/19/03.pdf>)
2015/10/08取得
- 4) 岡 檀：生き心地の良い町 この自殺率の低さには理由（わけ）がある、講談社、2013
- 5) 文部科学省：私立大学の役割
(http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo9/shiryo/attach/1319879.htm) 2015/02/18取得
- 6) 長田 進：大学の地域貢献についての一考察とその事例、慶応義塾大学日吉紀要社会科学 (19)15-28、2008
- 7) 「フロントランナー」『朝日新聞 be』2014年9月13日、朝刊
- 8) 宮本佳範：地域と連携した活動の現実的課題－名東区魅力マップ作りに取り組んで、愛知東邦大学地域創造研究所（編）、地域創造研究叢書No.22 学生の「力」をの
- ばす大学教育－その試みと葛藤、唯学書房、2014
- 9) 越川 茂樹、三原 鉄平、山本 登志子：地域と大学の協働・共創的關係の構築に関する一考察－OPU フォーラム2011シンポジウム「躍動する地域づくり」を超えて、岡山県立大学保健福祉学部紀要 (18) pp. 65-75、2011
- 10) 小松隆二：大学にとって地域とは何か－大学と地域關係の基礎、伊藤真知子、小松隆二（編）大学地域論－大学まちづくりの理論と実践、論創社、2006
- 11) 農林水産省：地域のつながりや信頼に関するアンケート調査
(http://www.maff.go.jp/j/nousin/noukei/socialcapital/pdf/ref_data02-6.pdf)
2015/02/18取得

【問10】同居の家族以外で地域の中にあなたの困りごと等を聞いてくれる人がいますか？

1. いる（問11へ進む） 2. いない（問12へ進む） 3. わからない（問12へ進む）

【問11】それは誰ですか？（該当するものすべてに○）

1. 地区内の親戚 2. 地区内の友人 3. 区長をはじめとした地区内の役員
4. 民生委員 5. その他（ ）

【問12】あなたは地区内の人とどんな「つながり」をもっていますか？また、それはどの程度必要ですか？（該当するものすべてに○）

	1. とても必要である 2. まあまあ必要性である 3. あまり必要ではない 4. ぜんぜん必要ない 5. どちらともいえない				
1. 自治会	1	2	3	4	5
2. 消防団	1	2	3	4	5
3. 老人会	1	2	3	4	5
4. 女性会	1	2	3	4	5
5. 子ども会	1	2	3	4	5
6. 愛農会	1	2	3	4	5
7. 趣味の会（グランドゴルフ、手芸など）	1	2	3	4	5
8. その他（名称： ）	1	2	3	4	5

【問13】すべての方にお聞きします。

あなたは今住んでいる地域のつながりについてどのようにお考えですか？できるだけ具体的に記入してください。

Ⅲ. 大学と地域との「つながり」についておたずねします。該当するものに○をしてください。

【問14】大学とのつながりは当地区にとって、どの程度必要ですか？

1. とても必要である 2. まあまあ必要性である 3. どちらともいえない
4. あまり必要ではない 5. まったく必要ない
6. その他（ ）

【問15】昨年度、大学が当地区に関わった①～③の内容でよかった点と改善を要する点を教えてください。

- ①福祉ニーズ調査 H26.3月27日（視察会）～7月24日（報告会）
②秋祭りへの学生参加 H26.10月11日・12日
③クッキングで地域交流 H26.11月26日 H27.1月21日

1. よかった点（ ）
2. 改善を要する点（ ）

